

GHC、がん医療の質向上を支援するデータ分析ツールを開発 有志病院による「CQI研究会」の参加者に無償提供

急性期病院を中心に経営支援サービスを行う株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン（GHC※1＝本社・東京都新宿区、渡辺幸子代表取締役社長）は、診療情報などが含まれるビッグデータを活用し、悪性腫瘍（がん）の診療品質の向上を支援するウェブアプリケーションサービス「キャンサーダッシュボード」の開発に着手しました。国のがん医療の中心的な存在である「がん診療連携拠点病院※2」の病院長や医師など有志で構成される「CQI研究会※3」の参加者に無償配布します。専門的な知識やノウハウが必要なビッグデータ分析を容易にできるツールを無償提供することで、がん医療に従事する専門家を支援し、がん医療の発展に貢献してまいります。

◆「キャンサーダッシュボード」とは

術後の入院日数などがん患者における複数の重要な診療データをピックアップし、これらのデータごとに全国平均と自病院の立ち位置をインターネット経由でウェブブラウザに表示するサービスです。術後の入院日数のほか、食事の開始日、抗生物質の種類や投与量などは、がん患者の病状や回復を左右する重要な指標ですが、各病院がそれぞれの欠点を洗い出し、改善する手段が限られているため、全国平均から著しく逸脱した治療を続ける病院もあるのが現状です。「キャンサーダッシュボード」を用いれば、「自己流」だった自病院の治療法の改善点を特定し、改善活動に結びつけるきっかけを得ることができます。

◆医療分野のデータサイエンティスト集団が開発

サービス提供に必要なのは、病院が蓄積する「DPC（※4）データ」、「レセプトデータ」「手術データ」「財務データ」などのビッグデータと、医療データ分析における専門的な知識とノウハウです。

病院が「キャンサーダッシュボード」のサービスを利用するには、自病院の該当データの提出が必要です。厳格なセキュリティ体制の下、GHCはすでにデータ収集対象のほぼ3分の1に当たる約500病院のビッグデータを保有しているため、他病院に特定されることなく、自病院の重要な治療データを約500病院と比較することができます。

「キャンサーダッシュボード」は、直感的な操作で簡単かつ瞬時に課題を探ることができる仕組みになっています。GHCは医療現場に熟知し、医療ビッグデータも扱える経営コンサルタントやエンジニアらで構成されるデータサイエンティスト集団です。これまでに「コンサル視点が瞬時に分かる」をコンセプトに独自開発した病院経営支援ツール「病院ダッシュボード※5」を展開しており、そこで培ってきたノウハウを「キャンサーダッシュボード」に集結させます。

「キャンサーダッシュボード」の開発を指揮するGHCの井口隼人マネージャーは、「自病院と他院の治療法を比較するベンチマーク分析を用いなければ、知り得ない重要指標は驚くほど多い。がん医療のベンチマーク分析を行うCQI研究会では、例えば、他院と比較して治療計画を見直し、自病院の術後の食事開始日を2日間も短縮した事例もあります。2日間も食事開始日を短縮できれば、その分だけ患者の回復が早まり、術後感染症の発症率も低下し、在院日数も短縮することで病院の経営改善、さらには国民医療費の削減にも寄与します」と話しています。

◆サービス概要

サービス名称：キョァンサーダッシュボード

サービス提供開始日：2015年7月25（土）

サービス対象：CQI研究会の参加病院

サービス内容：肺がん、大腸がんの自病院と他院の治療データの閲覧と比較

※2月24日時点では乳がんの分析も記載されていましたが、正しくは肺がんと大腸がんのみです。お詫びして訂正します。

利用料金：無料

（※1）株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン

医師や看護師などの医療専門職、ヘルスケア企業出身者、IT専門家らで構成される経営コンサルティングファーム。急速な高齢化で社会保障財政の破綻が危険視される中、「質の高い医療を最適なコストで」という理念を実践する具体的な手法として、米国流の医療マネジメント手法である「ベンチマーク分析」を日本に初めて持ち込み、広めたパイオニアです。詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.ghc-j.com/>

（※2）がん診療連携拠点病院

質の高いがん医療の全国的な均てん化を目的に整備された病院。特定領域や地域に特化したものも含めて、全国に409カ所整備されています（2014年8月時点）。

（※3）CQI（Cancer Quality Initiative）研究会

がん診療連携拠点病院などで構成されるベンチマーク分析を軸にした研究会。栃木県立がんセンター、千葉県がんセンター、神奈川県立がんセンター、愛知県がんセンター、四国がんセンターの5つのがん専門病院の有志が集まって2007年に設立。2014年8月時点の参加病院は88施設。参加病院の診療プロセスについてDPCデータなどを用いて分析し、お互いの病院名を開示した形で病院間比較を行っています。詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.ghc-j.com/science/cqi.html>

（※4）DPC

DPC（Diagnosis Procedure Combination：診断群分類）は米国に倣った新たな病院の支払い方式に対応した診療項目の分類方法で、従来の出来高制度に対して、包括支払い制度と言われています。積み上げ式の出来高制度では治療行為を増やせばそれだけ医業収益が増加しますが、包括支払い制度では質を担保した上で最適な医療を提供しなければ、コストがかさみ、利益を圧迫することになります。DPCデータはこうしたDPC制度下にある病院が厚生労働省に提出するもので、実施した詳細な診療データが分かります。

（※5）次世代型経営支援サービス「病院ダッシュボード」

GHCが2011年に独自開発した病院経営支援サービスで、これまで主流だったDPCデータ分析ソフトに対して、レセプトデータや手術データなど多様なデータも合わせて活用することで、外来や手術のデータなども分析できることが特徴の一つ。また、GHCが10年間培ってきたコンサルティングと医療データ分析の経験とノウハウで重要な経営指標をあらかじめ設定し、青、黄色、赤の信号色で経営状況を瞬時に確認できる点も独自の手法となります。詳細はPRページをご覧ください。

<http://dashboard.ghc-j.com/>

お問い合わせ：株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン

担当：コンサルティング事業部（井口、八木）、広報室（島田）

TEL：03-6380-2401（代表） FAX：03-6380-2402 mail：info@ghc-j.com

〒160-0022 東京都新宿区新宿6-27-30 新宿イーストサイドスクエア5F